

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動に御理解と御協力をいただいておりますことに、心よりお礼申し上げます。

さて、今年度の全国学力・学習状況調査について、自校で分析した結果の概要を下記の通りまとめましたので、お知らせいたします。

本校といたしまして、成果や課題を把握・検証して、その改善を図り、子どもたち一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上等につながるよう教育実践を進めてまいりたいと考えています。

なお、本調査により測定できるのは、あくまでも学力の一部であり、学習状況の全てを判断することは難しいところであることを御理解いただきますようお願いいたします。

1 結果について

国語

〈成果〉～正答率の高い問題内容～

- 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを見る問題
- 人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題
- 読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかを見る問題

〈課題〉～正答率の低い問題内容～

- ▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかをみる問題
- ▲目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことができるかをみる問題
- ▲文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかをみる問題
- ▲登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる問題

算数

〈成果〉～正答率の高い問題内容～

- 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかをみる問題
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかをみる問題

〈課題〉～正答率の低い問題内容～

- ▲2つの図形（立方体とその中に入った球）の関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式で表すことができるかをみる問題
- ▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかみる問題
- ▲速さの意味について理解しているかをみる問題
- ▲折れ線グラフから必要な情報を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかをみる問題
- ▲示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、条件を基に判断（基準値を超えるかどうか）できるかをみる問題

児童質問紙

〈成果〉～肯定的な回答の割合が高い内容～

- 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」といった自己有用感に関する質問
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」
- 「友達関係に満足していますか」
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」
- 学習におけるICT機器の活用に関する質問

〈課題〉

- ▲「テレビゲームや携帯式のゲームをする時間」「SNSや動画視聴の時間」が全国平均より多い
- ▲「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」という質問の肯定的な回答の割合が低い
- ▲「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え工夫することができますか。」といった学び方の工夫に関する質問の肯定的な回答の割合が低い
- ▲「自分の考えを発表する機会では、考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」といった表現の工夫に関する質問の肯定的な回答の割合が低い
- ▲学校以外の1日の勉強時間で「全くしない」「30分より少ない」が全国平均より多い

2 今後に向けた改善策

(1) 学力向上の取組

「目的」や「意図」、活動の「条件」を明確にした授業展開の重視

- 単元末や学習時間最後の振り返りだけでなく、「途中振り返り（目的や条件の確認）」を大切にします。
- 「条件」を意識して取り組む活動を計画的に取り入れること（徐々に条件数を増やしたり、条件内容を高度にしていったりするなど）を大切にします。
- 「何ができるようになるための時間なのか」など、授業のゴールを子どもと共有し、見通しをもって取り組ませることを大切にします。

「相手意識をもった説明を考える活動」を重視した授業展開

- 「自分が理解するための説明」と「分からない人にも分かるような説明」が時として異なることを理解させるなど、『分からない人に分かるように伝える説明』を大切にします。
- 「相手や目的に応じて詳しく伝えるべき（書くべき）部分はどこなのか」を考えて説明することを大切にします。

記述力・表現力の向上に向けた取組

- 宿題などでミニ作文（日記やテーマ作文など）の取組を継続します。

基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組

- 授業の理解度の確認時間とその日の家庭学習を考える時間をセットで取り入れるなど、ふり返りを家庭学習に生かす態度の育成を大切にします。
- 給食準備時間の「解き直しタイム」やNST（放課後学習）の時間を充実させていきます。

(2) 望ましい生活習慣づくり

きまりを守って、規則正しい生活を送ろうとする態度の育成

- 情報機器使用時のルールやメディアとの関わり方に関する指導に取り組み、「アウトメディア」を含め望ましい時間の使い方について考えるように指導していきます。
- 「All Nagayama学習のきまり」「西っ子のきまり」の徹底に努めます。
- 「読書時間の延長→ゲーム・動画視聴時間の短縮」と考え、水曜日読書の徹底、余白時間の読書の働きかけに努めます。
- 「自主学習プランニングシート」「生活プランニングチェックシート」を活用して、家庭と連携しながら、主体的な家庭学習の習慣化や生活リズムの見直しや改善に努めます。

3 お願い

生活習慣と学力には、密接な相関関係があることが分かっています。学校では、「授業改善」「落ち着いた学習環境づくり」「望ましい習慣づくり」等の取組を行っています。御家庭でも、学校で取組を推進している「自主学習プランニングシート」「生活プランニングチェックシート」を御活用いただきながら、「家庭学習の定着」「早寝・早起き・朝ご飯」「家族同士での挨拶・会話」「お手伝い」「外遊びの奨励」等、基本的な生活習慣の改善と定着について、御指導いただきますようお願いいたします。

4 旭川市の結果について

旭川市のホームページに「調査結果報告書・指導の改善策」が掲載されていますので、こちらを御覧ください。

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/d056900.html>
サイト内検索「全国学力・学習状況調査」で検索ください。

